

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について
(予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

《9月の病害虫発生予報》

＜作物＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病		紋枯病	
				トビロウンカ		
				コブノメイガ		
				斑点米カメムシ類		
	ジャンボタニシ(発生に注意)					

＜果樹類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう					べと病	
				褐斑病		
				晩腐病		
もも					せん孔細菌病	
クビアカツヤカミキリ(発生に注意)						
みかん			黒点病			
				ミカンハダニ		
				ナシマルカイガラムシ		
果樹類全般			果樹カメムシ類			

＜野菜類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病			
				アザミウマ類		
				オオタバコガ		
(キャベツ・ しらな等) 野菜 あぶらな科				根こぶ病		
				コナガ		
			ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)			

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり			うどんこ病		
			炭そ病・褐斑病		
			べと病		
			ウリノメイガ		
		コナジラミ類			
トマト		コナジラミ類			

<花き類>

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく		アザミウマ類		黒斑病・褐斑病	
				白さび病	

<その他>

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類全般 野菜類			アブラムシ類		
			ハダニ類		
			ハスモンヨトウ		
			シロイチモジ ヨトウ		
			オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■発生が平年よりやや多いと予想される病害虫

【水稻】 紋枯病

【ぶどう】 べと病

【もも】 せん孔細菌病

【野菜・花き類】 シロイチモジヨトウ

- ・害虫は発生初期の防除が重要です。
- ・べと病やせん孔細菌病は、病原菌が園内で越冬しますので、発生時には収穫後も防除を行うほか、被害葉や被害果実などを園外に持ち出して処分することが重要です。

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【あぶらな科野菜（キャベツ・ブロッコリー等）】 コナガ、根こぶ病

- ・キャベツ等の苗作りの季節ですが、ここ数年、コナガでは一部のジアミド系農薬の効果が低下しています。苗床と本ぼで同じ系統の薬剤の連用はやめ、ローテーション散布を行いましょう。
- ・根こぶ病は発病すると防除が困難となりますので、定植前に石灰質肥料を施用して土壌酸度を矯正し、ネビリュウやオラクル粉剤(キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワー等)を土壌混和しましょう。

■地域により発生が増えており、今後の発生に注意が必要な害虫
【水稲】 ジャンボタニシ
【もも、うめ、すももなどバラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

《(参考) 9月の気象予報》(大阪管区气象台 8月29日発表)

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稲

病虫害名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 [メモ] ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤 (アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等) 耐性菌の発生が報告されている。
紋枯病	やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 [防除上考慮すべき事項] ・高温多湿であれば発病が多くなる。
トビイロウンカ	並～やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 ・予察灯への飛来虫数は平年並であった。 [防除上考慮すべき事項] ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病虫害発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
コブノメイガ	並～やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、一部地域で発生が多かった。 ・予察灯への飛来虫数、フェロモントラップによる誘殺虫数とも平年並であった。
斑点米カメムシ類	並～やや多い	[予報の根拠] ・8月の予察灯への飛来虫数は、中部地域でやや多かった。 ・北部地域で発生が多いとの報告があった。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[防除上考慮すべき事項] ・近年、生息地域が拡大している。 ・田植え後約20日経過後は、新たな食害被害は出にくい、貝の密度を低くするために、ピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。 ※「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」(平成29年度技術資料)参照 http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生が平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度発生すると急速に被害拡大することが多いため、ほ場の見回りをこまめに行う。 ・発生園地では、使用時期に注意し、薬剤防除を行う。 ・発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。 ・QoI 剤は耐性菌が生じやすいので、1 作 1 回程度の使用に努める。 ・発生園地では、収穫後にも IC ボルドーなどで防除を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培で発生が多い。 <p>※「露地ぶどう べと病に注意！」(7月19日発表)参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/201907beto.pdf</p>
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を取り除くとともに、初期防除を徹底する。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果房は、園外に持ち出し処分する。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果実や枝病斑は、感染源となるためほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・発生の多かったほ場では、9 月～10 月に、IC ボルドーなどを散布する。
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は4月～10月頃にフラス（中華麺～うどん状に固まる木くず等の混合物）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 <p>※「クビアカツヤカミキリに注意！」（5月7日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/H3105kubika.pdf</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の気温はやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。
ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・一部地域において、発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫発生期に薬剤を散布する。 ・樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は日照不足、他の病気と比べて乾燥条件下で多発する。 ・QoI剤(アミスター、ストロビー)、SDHI剤(アフェット)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

アザミウマ類	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。0.8mm目合の赤色ネットは、0.4mm目合の白色ネットと同等の効果がある。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
オオタバコガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府の発生状況と気温から算出した発生予測モデルでは、平野部では本年第3世代の発生ピークは 9/8日頃と推定される。従って防除適期はその 7～10 日後の9月中旬である。中山間地では約5～7日遅れとなる。 ・葉や花に発生している幼虫を見回って、発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。穴のあいた果実は内部の幼虫を殺してから処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1頭の幼虫が次々と果実に侵入するため、発生が少なくても被害が大きい。

2 あぶらな科野菜 (キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の9月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶらな科野菜の連作を避ける。 ・早植えを避ける。 ・土壌pHが低い(酸性)と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。 ・前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。 ・土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場は避ける。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 ・予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予察灯への飛来虫数は、やや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、育苗中にかん注剤の施用を行い、発生初期に防除を徹底する。
-------------------------	-------	---

3 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 発生初期の防除を徹底する。 草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> うどんこ病は、日照不足、他の病気に比べて乾燥条件下で多発する。
炭そ病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意すること。 ハウス内の多湿状態を避ける。 窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。 QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意すること。 ハウス内の多湿状態を避ける。 肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。 QoI 剤(アミスター、ストロビー、ホライズン)の連用は避ける。
ウリノメイガ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 食害株の幼虫を捕殺する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。

コナジラミ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。
--------	-------	--

4 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナジラミ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類の発生初期の防除に努める。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・コナジラミ類の防除は、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病に感染すると治療薬はないので、感染株は、すぐには場外に持ち出し適切に処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介する。

D 花き

きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
白さび病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。

アザミウマ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉に被害を及ぼすミカンキイロアザミウマ等の他に、葉にハダニ類に似た被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等があるため、被害状況に応じ防除を行う。
--------	-------	--

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病害が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルスには、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。
ハスモンヨトウ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は先月に引き続きやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>※「シロイチモジヨトウに注意！」(6月11日発表)参照。</p> <p>http://www.jppn.ne.jp/osaka/HB1nd/boujyoiyouhou/R0106shiroiti.pdf</p>

オオタバコガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府の発生状況と気温から算出した発生予測モデルでは、平野部では本年第3世代の発生ピークは 9/8日頃と推定される。従って防除適期はその 7～10 日後の9月中旬である。中山間地では約5～7日遅れとなる。 ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	---	---

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> 最新の防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/milservice/milservicemusikoni.html>

※年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。(情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です)

●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

※最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

●「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chiikyukankyo/jigyotoppage/at susataisaku.html>

「暑さ指数情報発信サービス登録サイト」(環境省熱中症予防情報サイト内)

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php

※大阪府では、府民のみなさまに夏の暑さに備えていただくため、「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設しています。「暑さ対策」の情報サービスのお知らせや暑さをしのぐ工夫や情報もご紹介します。熱中症対策には是非ご活用ください。